

## 令和7年度 高知県死因究明等推進協議会議事要旨

日 時: 令和8年2月2日(月) 18:30～20:30

場 所: 高知城ホール 2階 中会議室

出席者: 古宮委員(会長)、小松委員、濱田委員、中村委員、細木委員、安影委員、鈴木委員、高橋委員(計8名)

【オブザーバー】厚生労働省医政局医事課死因究明等企画調査室 新野室長補佐

【事務局(医療政策課)】 公文チーフ、津田主事

### 1 開会

・高橋委員から開会の挨拶

### 2 会長、副会長の選任について

・令和7年12月28日付け委員委嘱の更新に伴う選任

・事務局が古宮委員を会長に推薦→全委員の賛成により会長は古宮委員に決定

・古宮会長が伊与木委員を副会長に指名→伊与木委員の承諾により副会長は伊与木委員に決定

### 3 死因究明等に関する施策の推進状況について【資料1】

・資料1について

<質疑>

(委員): 死体検案相談事業の年間相談件数は、何件か。

(厚労省): 20 から 40 件ほどの相談がある。

(委員) 死因究明拠点を設置している都道府県は、どの程度あるか。

(厚労省) 独立拠点として、設置されているのは、千葉県の筑波剖検センターのみである。その他として、都道府県と大学が連携して、拠点到近い体制を整えている場合もある。

### 4 各機関の取組実績について【資料2】

・各機関から資料2の取組実績について説明

<質疑等>

・項目2

(委員) 取り組み実績に対する今後の課題はあるか。

(海保) 警察に比べ取り扱い遺体数が少ないため、研修等に参加することで、知見を蓄積することや、多くの職員の知識向上につながる取り組みが必要と考えている。

・項目3

(委員) 警察協力医会の協力医が増えた要因と、検案に必要な医師数はどの程度か。

(県警) 協力医が増えた要因としては、警察協力医会長による啓発等が影響している。人数に関し

では、決まった目標値はない。

(委員) 人生会議に関する一般住民を対象とした講座について、参加人数の推移や参加者の感想等のアンケート結果について教えてほしい。また、来年度の新しい取組についても教えてほしい。

(県) 今年度の県政出前講座の参加者数は、令和6年度に比べ減少している。要因として、開催数が減少したためと考えている。参加者の感想として、人生会議の重要性や継続した話し合いの必要性を認識できたとの感想が多かった。来年度の新たな取り組みとして、人生会議の啓発動画の作成と公開を行う予定である。

#### ・項目4

(委員) 診療放射線技師会として、AI 非実施医療機関への啓発活動をどのように行っているか。

(放射線技師会) 講習会等で声かけ等を行っている。

#### ・項目5

(委員) インターポール版デンタルチャートの使用は、県歯科医師会内で議論が進んでいるのか。

(歯科医師会) 県歯科医師会で議論されるところまで進展していない。他県では、日本版のデンタルチャートの整備も進んでおらず、啓発活動が必要と考えている。

(委員) 災害対策を考える場合、国や都道府県との連携が必要と考えるが、県から意見等はあるか。

(県) 県歯科医師会が考える課題は、全国的な課題として捉える必要があると考えている。県災害対策室に情報提供していきたい。

### **5 情報共有事項について【資料3】**

・県歯科医師会の濱田委員及び県診療放射線技師会の中村委員からそれぞれ共有があった。

・濱田委員から、大規模災害発生時における、県警から歯科医師への派遣要請の連絡体制について共有依頼があった。県警と県歯科医師会への連絡体制は、構築できておらず、今後の課題である。一般的に考えられる連絡体制として、県警から県歯科医師会に派遣要請を行い、参集可能な歯科医師に最寄りの警察署や遺体安置所に集合していただくことが考えられる。

・中村委員から、診療放射線技師が大規模災害時の協定に基づいて活動する場合、協力した技師に県から報酬を支払うことができるか教えていただきたいという内容の共有があった。県より、各医療従事者団体との協定において、県の費用負担は、災害救助法で規定される範囲内で支弁されるが、費用負担の詳細については、協定書作成時に話し合われるものであると回答があった。

### **6 その他**

・来年度の協議会の開催時期について

(事務局) 2月頃の開催を考えているが、よいか。

→全委員了承

### **7 閉会**